

2024年3月期第1四半期決算説明Web会議 主なQ&A

- Q 計画に対する実績の進捗はどうか。事業ごとに教えてほしい。
- A 鉄道の収入については、定期収入が上振れているものの、定期外収入がビハインドであることから、合わせると想定並み。不動産賃貸事業やホテル事業、流通・外食事業の収入は上振れ気味であるという認識。費用については、特に鉄道の動力費が下振れ気味ではあるが、全体としてはインライン。結果として、第1四半期の実績は業績予想の範囲内であるという認識だ。
- Q 10月から予定されている鉄道の各種きっぷの価格改定はどの程度の効果額を見込んでいるか。
- A 年間で合計10億円程度の増収額を見込んでいる。
- Q お盆の予約状況に対する評価はどうか。
- A お盆の予約状況はJR他社に比べて弱いという認識ではあるが、直前の予約や自由席利用もあるので、実績が出てみないことにはわからない。また、予約率で見ればJR他社とあまり変わらないので、そこまで悪くない数字であると評価している。
- Q JR他社に対して予約の回復が悪い要因をどう認識しているか。
- A GWも同じような状況であった。今後社内で分析していきたい。
- Q 西九州新幹線の実績に対する評価はどうか。開業効果を持続させる施策はあるか。
- A 第1四半期は開業前の特急と比べて101%の乗車人員であった。開業効果が薄れることで昨年度よりは若干減ってきてはいるが、まずまずの実績ではないかと思う。沿線エリアでのイベントを企画しているので、地域の皆さまと一緒に盛り上げていきたい。
- Q タッチ決済の拡大をされているが、ICカードと比べて反応速度が遅いことから、改札の回転率低下につながるか。
- A 現在実証実験中であるが、そのようなデメリットは今のところ感じていない。ご利用状況を踏まえ、今後の導入は検討していく。
- Q 先日、JR東日本で架線の事故が発生した。御社はテクノロジーを活用したコストダウンを行っているかと思うが、コストダウンに伴って事故のリスクは高まると考えていた方がよいか。
- A 新しい技術を導入する際はこれまでの安全性が確保できることが前提であるため、事故のリスクが高まるということは無い。

Q 駅ビルのテナント売上の増加が、どの程度業績に影響するか。固定賃料と変動賃料の比率で変わるかと思うが。また、売上が好調なテナントの業種は何か。

A 固定賃料と変動賃料の比率については回答いたしかねるが、テナント収入が上がれば当社の収入にもある程度貢献すると捉えていただきたい。売上が好調な業種については、全体的に伸びてはいるが、特に高価格品や土産品が伸びている。

Q 九州では半導体関連の投資が活況であるが、御社の事業につながるか。事業に何か変化は生じているか。

A 足元で明確な影響はまだ感じられないが、熊本の沿線地域の人口が増えるとともに、博多や鹿児島への長距離移動の需要が増えるなど、今後鉄道需要を中心に一定程度影響があると思われる。また、熊本県が鉄道の新線を計画しているので、その効果にも期待したい。

<ご留意事項>

※本資料は、説明会当日の質疑をそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。また、本資料は、説明会当日時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、新型コロナウイルス感染症の状況、人々の価値観やライフスタイルの変化、国内外および九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

以上